


## ツシヤマネコ起点のSDGsまなび共創プロジェクト

<b>取組開始時期</b>	2021年3月～ (準備は2019年～)	<b>取組の カテゴリー</b>	情報化 (ICTを活用した新しいまなび共創)	<b>応募部門 (○を付ける)</b>		<b>PF会員間連携部門</b>	○	<b>一般部門</b>
<b>1. 団体名</b>	コミュニカール株式会社	<b>2. 連携先の 団体</b>	よこはま動物園ズーラシア/横浜市繁殖センター、対馬の人々、スミソニアン国立自然史博物館 研究員 松井久美子博士、(一社) MIT顧問 平山俊章先生、対馬市立厳原北小学校、横浜市立みなとみらい本町小学校 等					
<b>3. 取組目的</b>	文化人類学的アプローチで絶滅危惧種の野生動物を切り口としたSDGsまなびコンテンツを動物園等と共創し、ICTを利活用して野生生息地と動物園の地域を「新しいまなび」で繋ぐ			<b>4. 関連する ゴール</b>				

## 5. 取組経緯

新型コロナウイルス感染症は、私たち人間の「在り方（Being）」を問い直す契機となった。ワン・ヘルスという概念の下、地球・自然、ウィルス・野生動物と人間の関わり方が、いまこそ問われている。2020年のダボス会議でTOP5に記載されたビジネスリスクは、すべて地球環境問題に起因するものだった。これからは私たちビジネスパーソンも、人間社会におけるダイバーシティのみならず、目線をひとつ上げて地球環境全体のダイバーシティへの感性を高め、地球規模リスクを視野に入れたリーダーシップを発揮していくことが求められると感じ、啓発・普及活動として始めるに至った。

## 6. 取組概要（100字以内） ※1次選考にて、投票ページに掲載します

ICTを利活用し、動物園と共創する絶滅危惧種の野生動物の切り口で地球・自然・人間の共生を考えるSDGs起点まなびコンテンツへのユーザーリーチを広げて、私たち人間の消費行動やライフスタイルの変革と観光促進に繋げる



写真：ズーラシアより提供

## 取組のポイント（3つの視点）

## 地方創生SDGsの視点

ツシヤマネコの野生生息地である「対馬」の自然の美しさや直面している地球規模課題（里山や田んぼ等の生息環境の悪化、交通事故、海ゴミ等）や、私たち人間との共生の在り方について考える「映像」を、ツシヤマネコの繁殖に取り組むズーラシアと共創・発信することによって、横浜/首都圏近郊に「対馬」の魅力を伝える。また、ズーラシアを軸に「横浜」の魅力も伝えていく。

## ステークホルダーとの連携

次ページをご参照ください。

## モデル性・波及性

ズーラシアと共創するコンテンツでは「対馬×横浜」の魅力をPRし、地域間交流として、対馬と横浜の小学校をオンラインで繋ぐSDGs起点のまなびの交流を企画している。ツシヤマネコの繁殖に取り組む動物園は日本に8つあるので、「対馬×横浜」を事例に、「対馬×井の頭（東京）」や「対馬×京都」等の横展開が期待できる。

## 7.取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

### ■ ステークホルダーとの連携体制図

2020年に横浜市立金沢動物園との共創機会をいただき、「シロテテナガザル」の目線で「気候変動とパームオイル問題」について考えるSDGsまなびコンテンツをオンラインイベントで配信。

2021年は、よこはま動物園ズーラシアとの共創で「ツシマヤマネコ」の目線で「生物多様性保全の大切さ」を訴求し、ツシマヤマネコと共生するために、私たち人間が地球や自然と、どのように関わればよいかについて問い、私たちの消費行動とライフスタイルについての在り方を問う。

今年の実証実験として、本コンテンツの一部を対馬厳原北小学校のESDコンテンツとして活用。総合学習の時間で、「私たちはツシマヤマネコを守るために何をするのか?」といった子どもたちのリーダーとして必要なSDGsの感性を育むことを目指す。また、オンラインを活用して、対馬の厳原北小学校と横浜のみなとみらい本町小学校をツシマヤマネコ起点で繋ぎ、創発的まなびの交流を企画する。

### ■ 2030年までに目指すゴールイメージ

**ツシマヤマネコのSDGs起点のまなびや交流から、ツシマヤマネコの野生生息地観光に繋がっていく世界観を共創する**

動物園と共創するツシマヤマネコ起点のまなび体験を機に、国内外のユーザーがツシマヤマネコに会いに動物園や対馬を訪れるようになっている。

日本は世界有数の生物多様性ホットスポット。対馬にも豊かな生態系があるので、ツシマヤマネコを初めとする自然地域資源を観光コンテンツとして磨き上げ、SDGsのまなび起点で発信、交流を巻き起こした結果、対馬は世界で人気のサステイナブル・ツーリズム先となっている。

